式辞（令和６年度卒業式）

３年生の皆さん、本当にご卒業おめでとうございます。担任の先生の最後の呼名のもと、凛々しい姿で卒業証書を受け取ることができ、本当に嬉しく思います。また、本日お忙しい中、ご列席たまわりましたご来賓の皆さま方、卒業生の晴れ姿をご一緒にお祝いしていただき、誠にありがとうございます。そして、何よりもここまで成長を支えてきた保護者の皆さま、本当にお子様のご卒業おめでとうございます。

今年の卒業式は総勢９２０名の参列となり、６年振りに在校生を会場に入れて、盛大に挙行できました。日常に戻るこの日を楽しみにしていましたので、本当に感慨一入です。

さて、卒業生の皆さん。本校に入学してからあっという間に３年が過ぎました。まだあどけなさが残る１５歳だった頃が懐かしく思い出されます。この３年間で、楽しかったことや苦しかったこと、嬉しかったことや悔しかったこと等、たくさんの思い出が出来たことと思います。

皆さんの学生時代を振り返るに当たり、コロナ禍であったことは切っても切れない関係となりますので、日常が戻った今、ここで再度、学校にとって、コロナとは何だったのか、皆さんにどのような影響を与えたのか、そしてそれを乗り越えるにはどうしたら良いのかをお伝えしてみたいと思います。

皆さんは、中学校１年生の３月から始まった未曾有のコロナ禍の中で、数々の理不尽な制約を受けました。突然の休校、日替わりの分散登校、友だちと関われないオンライン授業、マスク越しの会話、行事や部活動の中止や縮小など――当たり前が当たり前で無くなった時間を過ごしました。その中で、学校は「できない理由」を探すのではなく「できる方法」を模索しながら進んできました。日常が戻った今、多くのことが変わりましたが、変わらないものもありました。

それは、人との関わり方、距離感です。つまり、人間関係です。実は、コロナ禍は、本校で言うならば、対人関係における問題行動が激減した時でした。これが何を示すかというと、人は、人との関わりが一番のストレスなのでしょう。人との距離を遠ざけたコロナは、ある意味青年期の皆さんには、ストレスが少ない時期になったのでしょう。しかし、日常が戻った今、人と人が関わらないのは無理なことにも気が付きました。特に青春時代は密なのです。学校は、人との関わりを学ぶ場所だったのです。

だから、皆さんに伝えたいのは、人間関係で悩むのは当たり前、と言うことです。どんなにＩＣＴが発展しても、人は必ず人と関わり続けることを求められます。このことをしっかりと自覚する必要があります。

それでは、『人間関係つまり困難を乗り越える力』をどう身に付けるのでしょうか？これに対しては、学校のテストで学ぶように答えが一つとは限りません。対する相手によっても違うし、青年期の皆さんと壮年期の私では、全く違うものになります。青年期は悩んで当然であり、自我が目覚め、他人との違いが気になる時期です。そんな時代は後１０年続きます。

誰にでも、自分にとって苦手な人、嫌いな人はいます。その人のどこが苦手なのか、嫌いなのかをよく考え、対処方法を学ぶしかないのです。そして、目の前の人は自分自身の鏡です。自分が怒っていたら相手も怒る。笑っていたら相手も笑う。これを意識して欲しいです。

人間関係に正解はありません。

そして、これから皆さんが進む世界も、また、今まで以上に正解が見つけづらい場所であります。

そんなことを考えていたら、今、私が伝えたいことがピッタリの歌が卒業ソングとして飛び込んできました。予餞会で歌われたラッドウィンプスの「正解」という歌です。２０１８年にリリースされ、コロナ禍で卒業式が中止になる学校にエールを送ったところから卒業ソングとして広まっていったようです。恥ずかしながら、私は、最近知りました。その歌詞の中に

「答えがある問いばかりを教わってきたよ　だけど明日からは　僕だけの正解を　いざ探しにゆくんだ　また逢う日まで」「制限時間は　あなたのこれからの人生　回答用紙は　あなたのこれからの人生　答え合わせの時には私はもういない　だから　採点基準は　あなたのこれからの人生」

伝えたいフレーズばかりです。

また、こんな一文もありました。

「僕たちが知りたかったのは」、「一番大切な君との仲直りの仕方」「大好きなあの子の振り向かせ方」「悔しさで滲んだ心の傷の治し方」「傷ついた友の励まし方」まさに、日頃、皆さんを見ていて、伝えることが難しかったことです。

人間関係とは、『仲直りの仕方』『振り向かせ方』『傷の治し方』『友の励まし方』を追い続けているような気がします。この曲が、日常が戻った今、改めて注目されている理由がわかります。

名曲から勇気や希望をもらうことは多くあり、その時期になると、必ず聞きたくなる曲があります。私たちの時代でいうならば、尾崎豊の『卒業』がそれに当たります。今でも歌い継がれています。

窓ガラスを割る不良の歌と思っていたら大間違いです。当時の若者の葛藤を見事に言葉に表しています。彼は、あの歌詞を１４歳の時に考え付いたそうです。その歌詞の中に「支配からの卒業」「あと何度自分自身 卒業すれば 本当の自分にたどりつけるだろう」とありますが、正に人生を表しています。ラッドウィンプスの『正解』、尾崎豊の『卒業』この２曲を是非、卒業にあたり、聞いてみて下さい。３年間北陵高校で学んだ皆さんなら、私の伝えたいことが分かるはずです。

それでは、再度尋ねますが、学校で学んできたことは？

回答用紙を埋めるのは、皆さん自身です。採点もしません。

コロナ禍の理不尽さを耐え抜いてきた皆さんならではの答えを探し出してください。

ただ、言えることは、リアルな学校で、友だちとすれ違いぶつかり合うことによって、多くのことを学び、思い出を作ってきたことだけは自信を持ってください。

そして、願うならば、本日手にした卒業証書をもって、学生時代の思い出がこれからの人生をカラフルに彩る礎になることを期待します。

結びになりますが、卒業の日を迎えられた皆さんの晴れ姿を目の当たりにして、誰よりも喜んでいるのは保護者の皆さまだと思います。

これまで、お子様の成長を支え、時には励まし、時にはそっと見守りながら、共に歩んでこられたことと思います。学業だけでなく、部活動や学校行事、そして日々の生活の中で悩みや喜びを分かち合いながら、今日の日を迎えられたことに、心より敬意を表したいと思います。

卒業生たちは、これから新しい世界へと歩みを進めて参ります。最近の天気のように変化の激しい時代になることは目に見えていますが、コロナ禍を乗り越えたお子様たちは、立派に成長しました。私たちは、卒業をもって遠くからの応援になりますが、保護者の皆さまには、これからも変わらぬ愛情でお子様を見守り、時には背中を押していただければ幸いに思います。

私たち教職員も、担任を中心に保護者の皆様と協力しながら、子どもたちの成長を支えてきました。時には連絡不行き届きのところもあり、ご不満を感じられたこともあったかと存じますが、常に本校の教育に対して温かいご理解とご支援を賜りましたことに、教職員を代表して、心より御礼・そして感謝申し上げ、式辞と致します。

ご卒業、本当におめでとうございます。

令和７年３月４日

茂原北陵高等学校
校長　永野　卓